

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 7 区分
 【発行日】平成 19 年 2 月 15 日 (2007.2.15)

【公開番号】特開 2002-205869 (P2002-205869A)
 【公開日】平成 14 年 7 月 23 日 (2002.7.23)
 【出願番号】特願 2000-404658 (P2000-404658)
 【国際特許分類】

B 6 5 H 35/08 (2006.01)
B 2 6 D 1/18 (2006.01)
B 2 6 D 7/18 (2006.01)
B 4 1 J 11/70 (2006.01)
B 4 1 J 15/00 (2006.01)

【F I】

B 6 5 H 35/08
 B 2 6 D 1/18
 B 2 6 D 7/18 E
 B 4 1 J 11/70
 B 4 1 J 15/00

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 12 月 20 日 (2006.12.20)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 記録媒体を切断する切断装置であって、
 前記記録媒体を厚さ方向に挟み込んで幅方向に移動することにより切断するカッタと、
 前記カッタを保持しており、前記記録媒体を幅方向に押さえ込んで、前記カッタの幅方向の移動を案内するガイドとを備えたことを特徴とする切断装置。

【請求項 2】 前記ガイドを保持しており、前記記録媒体の排出時に前記ガイドを前記記録媒体から退避させ、前記記録媒体の切断時に前記ガイドを前記記録媒体に押し付けるホルダを備えたことを特徴とする請求項 2 に記載の切断装置。

【請求項 3】 前記ガイドは、前記記録媒体の幅方向に長尺に形成され、前記記録媒体を幅方向に押さえ込む押さえ板と、前記記録媒体の幅方向に長尺に形成されて前記押さえ板と一体化され、前記カッタの幅方向の移動を案内する案内溝とを備えたことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の切断装置。

【請求項 4】 前記ホルダは、前記ガイドの両端をそれぞれ保持することを特徴とする請求項 3 に記載の切断装置。

【請求項 5】 前記ホルダは、前記ガイドを前記記録媒体から退避させた後、あるいは前記記録媒体に押し付けた後に保持する弾性部材を備えたことを特徴とする請求項 2 ~ 4 の何れか一項に記載の切断装置。

【請求項 6】 前記弾性部材は、引っ張りバネであることを特徴とする請求項 5 に記載の切断装置。

【請求項 7】 記録媒体に情報を記録するプリンタであって、
 請求項 1 ~ 6 の何れか一項に記載の切断装置を備えたことを特徴とするプリンタ。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

【発明を解決するための手段】 上記目的達成のため、本発明に係る切断装置では、記録媒体を切断する切断装置であって、前記記録媒体を厚さ方向に挟み込んで幅方向に移動することにより切断するカッタと、前記カッタを保持しており、前記記録媒体を幅方向に押さえ込んで、前記カッタの幅方向の移動を案内するガイドとを備えたことを特徴としている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 8 】

これにより、記録媒体が例え反っていたとしても、切断時にはガイドによりその記録媒体を平坦にすることができるので、カッタによる記録媒体の切断精度を常に高精度に維持することができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 9 】

また、本発明に係る切断装置では、前記ガイドを保持しており、前記記録媒体の排出時に前記ガイドを前記記録媒体から退避させ、前記記録媒体の切断時に前記ガイドを前記記録媒体に押し付けるホルダを備えたことを特徴としている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 0 】

これにより、切断装置を使用しないときには、ガイドを退避状態にしておけば記録媒体と干渉することはないので、切断装置を一旦設置した後は切断装置自体を取り外す必要がなくなる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

また、本発明に係る切断装置では、前記ガイドは、前記記録媒体の幅方向に長尺に形成され、前記記録媒体を幅方向に押さえ込む押さえ板と、前記記録媒体の幅方向に長尺に形成されて前記押さえ板と一体化され、前記カッタの幅方向の移動を案内する案内溝とを備えたことを特徴としている。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0012】

これにより、記録媒体を確実に平坦にすることができると共に、カッタを確実に真っ直ぐに移動させることができ、切断精度を向上させることができる。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

また、本発明に係る切断装置では、前記ホルダは、前記ガイドの両端をそれぞれ保持することを特徴としている。これにより、記録媒体をホルダ間に通すことができるので、記録媒体との無用な干渉を防止することができる。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

また、本発明に係る切断装置では、前記ホルダは、前記ガイドを前記記録媒体から退避させた後、あるいは前記記録媒体に押し付けた後に保持する弾性部材を備えたことを特徴としている。これにより、切断装置を簡易な機構で構成することができる。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

また、本発明に係る切断装置では、前記弾性部材は、引っ張りバネであることを特徴としている。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

これにより、ガイドを記録媒体から退避させた後に保持し、記録媒体に押し付けた後に保持する2通りの保持状態を、いわゆる2安定バネで実現することができる。

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

また、本発明に係るプリンタでは、記録媒体に情報を記録するプリンタであって、上記各切断装置を備えたことを特徴としている。

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

これにより、記録媒体が例え反っていたとしても、切断時にはその記録媒体を平坦にすることができるので、切断装置による記録媒体の切断精度を常に高精度に維持することができる。また、記録媒体の切断が必要なときのみ切断装置をプリンタに取り付け、記録媒体の切断が不要なときは切断装置をプリンタから取り外しておくことができるので、作業の邪魔にならず、作業効率を向上させることができる。また、切断装置を取り付けたままでも記録済みの記録媒体を続けて排出することができ、切断装置の着脱作業を省略することができる。そして、上記各作用効果を奏するプリンタを提供することが可能となる。